分野7　快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」（都市整備分野）

政策1　いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進

- 施策1　地域の特性に応じた都市機能の充実　…施策番号 50
- 施策2　暮らしを支える生活機能の維持　…施策番号 51
- 施策3　多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進　…施策番号 52
- 施策4　地域の特色を活かした景観の形成　…施策番号 53

政策2　拠点をつなぐネットワークの充実

- 施策1　地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築　…施策番号 54
- 施策2　拠点をつなぐ交通ネットワークの整備　…施策番号 55

７－１－１

１　施策の概要

施策番号	50（７－１－１）		
分　野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政　策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施　策	地域の特性に応じた都市機能の充実		
施策の目指す状態	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域における人口密度が維持され、市民生活へのサービスの提供可能な都市機能が集約し、居心地の良い空間が形成されている。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール							○					○		○	○		○

２　指標の推移等

内　容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値 R4	R5	R6	R7	R8	目標値（R8）
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である	%	(R3) 50.4	47.4	43.4				↗
	Ｒ５年度実績値の理由	中心市街地に対して「魅力ある商業施設」及び「駐車場の不足・料金の負担感」の声が複数の世代から寄せられており、肯定的評価が減少傾向にある。								
	回答者自身の実践状況①	（設定なし）	－	(R3) －	－	－	－	－	－	―
	Ｒ５年度実績値の理由									
統計指標	人口密度	居住誘導区域の人口密度	人/ha	(R2) 50.6	50.2	49.9				50.1
	Ｒ５年度実績値の理由	都市計画課	市域人口の減少に伴い、居住誘導区域人口密度も緩やかに減少している。							
	人口割合	居住誘導区域の人口割合	%	(R2) 75.8	76.4	76.6				76.0
	Ｒ５年度実績値の理由	都市計画課	市域人口の減少に比べて、居住誘導区域内人口の減少は緩やかであることから、人口割合は維持、ないし若干の増加傾向にある。							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

Ｒ５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	都市計画マスタープランの基本方針である集約型都市構造に対応する土地利用の実現のため、令和4年9月に長野市立地適正化計画の改定をおこなった。 都市再生特別措置法に基づき、一定の区域に人口や都市機能を誘導していくため、居住誘導区域外での開発行為や建築行為について事前の届出を徹底させた。

４　課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
集約型のまちづくりを進めるには、計画的な規制・誘導が必要である。特に近年は人口減少とともに、都市全体が低密度化している問題に加え、自然災害への対応など防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策が必要である。	快適に暮らし活動できるまちづくりに際しては、都市機能の集約施策を推進すると共に、近年、頻発・激甚化する自然災害に対応するため「災害に強いまちづくり」の観点を加えた総合的な対策が必要である。

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）

都市計画マスタープランに基づき個別具体の都市計画を誘導し、中心市街地や鉄道駅周辺などについては低・未利用地の有効活用を図るほか、都市拠点としての機能を高めて集約型のまちづくりを進めるために立地適正化計画に関連する支援策、取り組み状況などについてパンフレット等で情報提供することで周知を図る。
都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に即した都市づくりの実現に向け、区域区分の見直し作業等を引き続き検討し、関係機関と調整及び協議を進めていく。

７－１－２

１　施策の概要

施策番号	51（7－1－2）		
分　野	都市整備分野	担当部局	建設部
政　策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	道路課
施　策	暮らしを支える生活機能の維持		
施策の目指す状態	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール							○	○						○	○		○

２　指標の推移等

内　容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値 R4	R5	R6	R7	R8	目標値（R8）
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	日常生活に必要なインフラが整備されている	%	(R3) 56.3	54.7	53.1				↗
	R５年度実績値の理由	大きな変動はないものの、公共交通の利便性が低下しているという意見が目立っている。								
	回答者自身の実践状況①	（設定なし）	－	(R3) －	－	－	－	－	－	―
	R５年度実績値の理由									
統計指標	上水道管路の耐震化率	上水道管路総延長に占める老朽管更新などにより耐震化された管路延長の割合	%	(R2) 15.2	16.2	16.4				17.7
	R５年度実績値の理由	水道整備課	老朽管解消事業などで耐震管を6,925m布設したことによる。							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

R５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤について、計画的に改修、更新を実施した。

４　課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤を将来にわたって健全な状況を維持していくため、計画的に改修、更新を実施していく必要がある。過疎化が進む中山間地においては、施設の複合化などの取組を進める。	都市基盤の強化に際しては、社会や環境の側面にも配慮し、持続可能な、社会・環境・経済の統合的なインフラ整備とする必要がある。

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）
インフラ施設を持続的に健全に保つためには、将来的に維持費の増大が見込まれるため、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入など、財政負担の軽減、平準化を図る必要がある。

７－１－３

１　施策の概要

施策番号	52（７－１－３）		
分　野	都市整備分野	担当部局	建設部
政　策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	建築指導課
施　策	多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進		
施策の目指す状態	だれもが気軽にまちなかを移動でき、地域の魅力を活かした暮らしやすい住環境が整っている。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール						○	○					○			○		○

２　指標の推移等

内　容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値（R8）
					R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	%	(R3) 31.4	30.4	30.6				↗
	R５年度実績値の理由	市有施設についてはユニバーサルデザイン・バリアフリー整備を実施し、民間建築物については指導及び助言を行った。すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備を図った								
	回答者自身の実践状況①	（設定なし）	－	(R3) －	－	－	－	－	－	―
	R５年度実績値の理由									
統計指標	道路施設における歩行空間の整備	①1.5m以上の歩道総延長 ②点字ブロックの総延長 ③歩車道の段差解消箇所数	①km ②km ③箇所	(R2) ① 296.8 ② 89.8 ③ 391	① 297.7 ② 90.2 ③ 403	① 298.0 ② 90.9 ③ 404				① 303.0 ② 93.0 ③ 420
	R５年度実績値の理由	道路課	若槻地区の点字ブロックを重点的に実施した。							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

R５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	・民間の高齢者、障害者等が利用する建築物や、多くの人が利用する建築物については、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）、長野県福祉のまちづくり条例及び長野市福祉環境整備指導要綱に基づく整備基準を満たすように指導及び助言を行い、市有施設においては新築時及び長寿命化改修工事等に併せてユニバーサルデザイン・バリアフリー整備を実施した。 ・障害者や高齢者など、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備については、道路交差部における歩車道の段差解消、視覚障害者誘導用の点字ブロックを設置することで安全な歩行空間の整備を図った。

４　課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・高齢者、障害者等の人々が安全で快適に暮らせるよう、建築物のバリアフリー化が図られている社会を目指す。 ・誰もが気軽に街なかを移動できる歩行空間を整備する。	・高齢者、障害者等が自立した日常生活及び社会生活を送れるよう又社会生活から取り残されることがないよう、建築物のバリアフリー化の促進に努める必要がある。 ・誰もが気軽に移動できる道路環境の整備については持続可能な都市及び居住環境を実現する。

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）

・民間の建築物については、引き続き、関係法令に基づく適正な整備に向けた指導及び助言を行うとともに、公共の建築物については、高齢者や障害者を含むすべての人々が、円滑に利用できるよう、人にやさしい建築物の整備を図る。
・歩車道の段差解消については、中心市街地の整備がほぼ完了したことから、郊外の住宅地等、歩行者が多い箇所を優先整備する。点字ブロックや歩道整備については、関係団体の意見や通学路としての利用状況などを踏まえた箇所を選定するとともに、道路改良に合わせた整備にも積極的に取り組む。

７－１－４

１　施策の概要

分野横断テーマ① まち

施策番号	53（７－１－４）		
分　野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政　策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	まちづくり課
施　策	地域の特色を活かした景観の形成		
施策の目指す状態	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール							○					○			○		○

２　指標の推移等

内　容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値 R4	R5	R6	R7	R8	目標値（R8）
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	景観やまちなみが美しい地域である	%	(R3) 59.6	62.4	57.3				→
	R５年度実績値の理由	景観やまちなみ関して、地域の活動や市の施策が行われており、美しい地域と感じる意識は一定の評価である。								
	回答者自身の実践状況①	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	%	(R3) 71.9	71.7	71.0				→
	R５年度実績値の理由	市民一人ひとりの美しい景観づくりへの意識が高く、その結果が数値に反映している。								
統計指標	道路美装化延長	歴史的風致の維持向上のため、周囲の良好な景観に調和した道路美装化延長	km	(R2) 8.62	9.00	9.15				9.00
	R５年度実績値の理由	まちづくり課	地域の特色を活かした景観を計画的に整備するため、戸隠地区において道路美装化（L=0.15km）を進めた。							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

R５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	・戸隠地区において、国の重要伝統的建造物群保存地区である歴史的な町並みの魅力を高めるため、地域住民及び関係機関と協議を行いながら、道路美装化を進めた。 ・善光寺地区において、関係者と協議を行いながら、地域の景観の核となる歴史的風致形成建造物の整備助成に取り組んだ。 ・良好な景観形成の啓発として、長野市景観賞に５件、花と緑大賞に14件を選考し顕彰した。

４　課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
地域固有の歴史・文化が感じられる景観形成には、歴史的建造物の保全とともに、建造物と一体となり歴史的風致を形成する周辺環境についても地域特性を十分に考慮した整備が必要である。 また、建造物の保全や周辺環境の整備を住民による主体的な取り組みにつなげていく必要がある。	地域の特色を活かした景観形成には、地域特性を十分に考慮した整備計画を基に一貫性を持ちながら、住民の主体的な参画、住民と行政の協働により取り組む必要がある。

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）
事業実施に先立ち住民や関係団体と協議を行うなど、地域の理解を得ながら整備を進めるとともに、地域の歴史を生かした住民活動、祭礼や伝統行事などの情報発信、また、顕彰制度により景観に対する住民意識の高揚を図る。

７－２－１

１　施策の概要

分野横断テーマ①まち

施策番号	54（７-２-１）		
分　野	都市整備分野	担当部局	企画政策部
政　策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施　策	地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築		
施策の目指す状態	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール							○		○	○				○	○		○

２　指標の推移等

内　容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値 R4	R5	R6	R7	R8	目標値（R8）
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	%	(R3) 34.1	30.9	23.4				→
	Ｒ５年度実績値の理由	運転手不足による路線バスの減便や日曜日運休等により、身近な移動環境に影響があった。								
	回答者自身の実践状況①	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	%	(R3) 20.4	20.6	20.7				→
	Ｒ５年度実績値の理由	日常的な利用において顕著な変化はみられない。								
	回答者自身の実践状況②	公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	%	(R3) 48.7	48.5	49.7				→
	Ｒ５年度実績値の理由	運転手不足によるバス路線の廃止や減便が身近に起こり、また全国各地でも運転手不足の影響が報道されることで市民の関心に若干の変容があったと思われる。								
統計指標	公共交通利用回数	市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数	回/人	(R2) 100.7	115.5	R6.11予定				137
	Ｒ５年度実績値の理由	交通政策課	令和５年度実績値は未集計(令和６年11月以降に集計)							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

Ｒ５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	・信州新町地区で導入したAIオンデマンド交通を中条地区に拡大することで交通空白地域を縮小するとともに利便性の向上に取り組んだ。また、大岡篠ノ井線を廃止することで重複する路線の見直しを行い、その他路線でも路線距離の短縮や利用者数に応じた運行の変更などにより効率化を行った。 ・バスや鉄道利用者の利便性向上のため、東日本旅客鉄道株式会社のSuica機能を備えた地域連携ICカードの導入に向けたシステム開発を行った。 ・運転手不足によるバス路線の運休や減便を解消するため、バス運転手確保に対する支援を行った。

４　課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・人口減少やライフスタイルの多様化に伴い、公共交通の利用者が減少している。一方、移動手段の減少による将来的な不安が大きくなっている。 ・公共交通網を維持するための経費（車両の維持費、赤字補填等）は年々増大している。 ・運行事業者においては運転手不足が顕著であり、路線の維持が困難な状況となっている。	地域公共交通は、交通弱者にとって必要な移動手段であるとともに地域活性化を支える基盤である。また、環境側面からも優れた移動手段であるが、その利用率は高いとは言えない状況であり、地域公共交通網を維持していくことは難しくなっている。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・長野市地域公共交通計画に基づき、①公共交通のネットワーク再構築、②運行環境の整備・利便性向上、③啓発・利用促進に取り組む。 令和６年度に取り組む事業としては、ＡＩオンデマンド交通システムのエリアの拡大、地域バス路線の再編、地域連携ICカードの普及、新たなバスロケーションシステム等の構築、ながのスマート通勤応援事業等を行う。	

７－２－２

１　施策の概要

分野横断テーマ① まち

施策番号	55（７－２－２）		
分　野	都市整備分野	担当部局	企画政策部
政　策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施　策	拠点をつなぐ交通ネットワークの整備		
施策の目指す状態	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。		

※　SDGsとの関連

	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
主要な目的に該当するゴール							○		○	○				○	○		○

２　指標の推移等

	内　容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値 R4	R5	R6	R7	R8	目標値（R8）
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	〔再掲：公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている〕	%	(R3) 34.1	30.9	23.4				→
	Ｒ５年度実績値の理由	運転手不足による路線バスの減便、日曜日運休等により、身近な移動環境に影響があった。								
	回答者自身の実践状況①	〔再掲：通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している〕	%	(R3) 20.4	20.6	20.7				→
	Ｒ５年度実績値の理由	日常的な利用において顕著な変化はみられない。								
	回答者自身の実践状況②	〔再掲：公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている〕	%	(R3) 48.7	48.5	49.7				→
	Ｒ５年度実績値の理由	運転手不足によるバス路線の廃止や減便が身近に起こり、また全国各地でも運転手不足の影響が報道されることで市民の関心に若干の変容があったと思われる。								
統計指標	公共交通利用回数（再掲：施策番号54）	市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数	回/人	(R2) 100.7	115.5	R6.11 予定				137
	Ｒ５年度実績値の理由	交通政策課	令和５年度実績値は未集計（令和６年11月以降に集計）							
	自転車通行空間の総延長	自転車道などの総延長	km	(R2) 11.40	17.70	24.70				32.80
	Ｒ５年度実績値の理由	道路課	矢羽根型路面標示の設置及び千曲川新道（綿内）の一部供用開始によるもの							

３　目標達成に向けた取組内容と実績

Ｒ５年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 （改善を行った内容を中心に記載）	・自転車通行空間等の整備として、市営自転車駐車場（安茂里駅・朝陽駅）へのサイクルスタンドの設置や、川中島駅自転車駐車場の照明ＬＥＤ化工事を行った。 ・長野市自転車活用推進計画に基づき、箱清水石堂線等への矢羽根型路面標示の設置など具体的な施策に取り組んだ。また、松代・若穂地区の拠点を結び、地域・観光振興を目的とした自転車道・遊歩道（千曲川新道）については、地元との合意による優先順位に基づき整備を行い、一部で供用開始した。 ・Maas等の利用に向けた整備として、ＧＴＦＳのデータ化を進め、スマホ等でバス路線の経路検索が容易になった。

４ 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGｓの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・自転車利用促進のため適正な規模の駐輪場及び放置自転車保管場所が必要であるが、特に長野駅周辺ではそのスペース確保が困難である。 ・駐輪場に長期間放置されている自転車が多数あり、一部の駐輪場では利用に支障をきたしているほか、移送や処分に多額の費用を要している。 ・千曲川新道については、地元との協議により通学路として活用できる箇所を優先的に整備する必要がある。 ・来訪者が公共交通機関を利用しやすいような環境の整備が充分とは言えない。	・公共交通機関や自転車等の利用を促進し、環境に負荷のかからない交通手段に乗り換える必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・駐輪需要の高い場所での駐輪スペース確保のため、民間事業者との連携を検討する。 ・放置自転車を減らし、利用環境を向上させるための取組みに加え、移送や処分に要する費用の削減に向けた施策を実施する。 ・千曲川新道については地元協議の上、計画的に境界立会いや測量設計を実施する。 ・来訪者が使いやすいようにバスロケーションシステムを再構築するとともに、バス待合所の設置等、環境整備を進める。	